緑友

No. 50
1982年7月20日発行

題字　今井直一筆

第25回 全国印刷緑友会長野総会開催される

新たに山梨印刷若人会・佐賀県印刷人若楠会が加入

'82 SAPPORO

情熱・可能性・実行

（第25回全国印刷緑友会札幌大会テーマ）

ご あ い さ つ

全国印刷緑友会 会長 **中村 守利**

全国緑友の皆さん、この一年緑友会にお寄せいただいた暖かい友情とご協力に対し心からの感謝を申しあげます。

第25回総回も長野で盛会裡に開催することができ、新年度の方向づけが皆さんのご熱意のもとになされましたことに深いよろこびを感じている次第です。

現在のわが国の経済環境は依然として緊張した欧米との貿易摩擦、さらにわが国の防衛力の増強要請等の国外要因に加え、国内的にも56年に引続き57年度も3兆円を越す歳入欠陥が予想され、消費低迷に伴うゼロ成長継続の予測からマクロ的観点でみれば、戦後の混乱期に匹敵する試練の局面を迎えていると申せましょう。

われわれ印刷業界にとりましても、この厳しい内外の経済情勢の影響はもとよりのこととして、すでにご承知の通りエレクトロニクス出現による事務・通信・技術の多岐にわたる曽てない革新の時代に入ったと申しても過言ではないでしょう。まさに試練の時節を迎えているわけです。

新しい時代の波——よしんばそれが試練の道であり、苦難の過程を辿るとしても、登る山坂あればこそ展ける眺望があるものです。

新しい時代の変化に対し、的確な判断と対応は欠くべからざるものであり、そのためにこそ新しい考え・新しいノウハウ・新しい情報を今こそ必要とする時代はないと思います。

こうした時に全国印刷緑友会の存在は大変意義深いものがあると思います。全国に友をもち組織をもつ緑友から学べるものは多大なものがあります。

緑友会も昨年久留米総会で新役員選出に引続き、新潟での大会さらに名古屋でのセミナーに全国緑友多数のご参集を得て「経営の心」「経営の技術」いわば経営両輪の錬磨をテーマにして、勉強とその勉強を通しての友情の輪のひろがりに有意義な一年を過ごすことができました。これは、ひとえに緑友皆さんの友情あふれる温かいご支援・ご協力のたまものであり、心からの感謝を申しあげます。

さらに、過日の長野総会で参加者全員によるバズセッション〝みんなで語ろう緑友会〟の時間を設け、緑友会の基本精神をもとに今後のあり方を討議できたことはまことに意義深いことでした。

真の緑友らしさを創造していくために、自己確立・存在証明ともいうべき〝緑友のアイデンティティ〟を全員で思索し、これから先の緑友会のより高い価置づけのための方向づけがされたことはまことに貴重であります。

新年度第一回常任幹事会で、早速この点を議題にいたしましたが新年度行事運営にあたり皆さんの声を反映するよう今後も常任幹事会にはかり鋭意努力する所存です。

新年度は前年に引続き経営両輪のテーマを基本ポリシーにし、同時に緑友皆さんの総意の反映としての会運営をと念じています。緑友皆さんの絶大なご尽力・ご協力のほどを心からお願い申しあげます。

第25回 定期総会議事録

全国印刷緑友会第25回定期総会は、5月15日㈯全国から26グループ約100名の会員と、これにオブザーバー31名が参加して、長野市内のホテル長野国際会館に於いて開催された。

主管の長野青年印刷人緑友会の新井和弘君の司会により、倉田剛君の開会の辞で開かれた。全員で君が代斉唱につづいて、古賀健一常任幹事（福岡印刷若葉会）の先唱で綱領を唱和した。列席の来賓紹介の後、高木勇実行委員長が次のように歓迎のあいさつを行なった。「長野はどこから来ても峠を越えねばならぬ交通僻地であり、ご参集の会員に多くの迷惑をかけることになるので、その分有意義な総会になることを心がけてきた。今回は25年目という記念すべき総会にあたるため、〝語り合う長野総会〟を企画した。これからの緑友会発展のためにじっくりと意見交換をして実のある総会にしていただきたい。」ひきつづいて中村守利会長から、あいさつが行なわれた。この後飯田範夫君（長野青年印刷人緑友会）を議長に議案審議に入った。

第1号議案　昭和56年度(24期)事業報告

久永信春常任幹事（文京緑友会）より、下記の事業報告がなされ承認された。

1．第24回定期総会　昭和56年5月16日
　場所　久留米グランドホテル
　主管　久留米印刷緑友会
　参加　25グループ　96名
　記念講演　「自衛隊の幹部教育について」
　　中村董正氏

中村守利会長のあいさつ

2．第24回全国大会　昭和56年9月4日～5日
　大会テーマ　「ひろげよう・たかめよう・たしかめよう－緑友の使命を！」
　場所　オークラホテル新潟
　主管　新潟県印刷新世会
　参加　26グループ 240名オブザーバー1名
　記念講演　「若人に期待するもの」
　　稲葉修氏
　分科会　A．経営の心…繁栄の心の法則を語る　講師　横内祐一郎氏
　　B．経営の技術…経営技倆の要点を語る　講師　渡辺守将氏

3．第15回セミナー　昭和57年2月6日
　場所　名古屋ホテルキャッスルプラザ
　主管　常任幹事会
　協力　名古屋而立会
　参加　24グループ 173名 オブザーバー3名
　講演1「経営の技術…職人集団の活性化」
　　浅野哲男氏
　　2「経営の心…深層心理の解明とその活用」　山中典士氏

4．常任幹事会　6回開催（合同会議1回）
（議事の詳細、その他は省略致しました）

第2号議案　昭和56年度(24期)決算報告

逸見節夫会計幹事（東京プロセス製版青樹会）より別掲決算報告書にもとづいて説明がなされた。松本孝昭会計監査（神戸印刷若人会）より決算報告書類の正確なことの報告があった後、同決算書は承認された。

第3号議案　昭和57年度(25期)事業計画

中村守利会長より第25期事業計画案が発表され承認された。

1．第25回定期総会　昭和57年5月15日
　場所　長野国際会館
　主管　長野青年印刷人緑友会

昭和56年度決算報告書

（昭和56年４月１日～昭和57年３月31日）

収入の部

科目	金額	備考
前期繰越金	759,628円	
会費収入	1,570,800	(30G 999名 △30,000)
受取利息	12,209	
雑収入	303,405	セミナー収益金
入会金	20,000	若竹会
合計	2,666,042	

支出の部

科目	金額	予算	備考
総会補助	250,000円	250,000円	５月16日 久留米総会
大会補助	350,000	350,000	９月４日 新潟大会
セミナー補助	0	200,000	２月６日 名古屋セミナー
緑友だより	310,000	280,000	48号 140,000 49号 170,000
会議費	230,000	230,000	６回開催
会計事務費	50,000	50,000	３月31日 一括払
慶弔費	0	30,000	
印刷費	64,540	30,000	３月31日 一括払
通信費	57,870	30,000	３月31日 一括払
会長出張費	150,000	150,000	３月31日 一括払
予備費より	34,800	0	テープレコーダー ３月31日一括払
会計	1,497,210	1,600,000	

繰越基金明細

56年度計上額	500,000
現在有高	1,317,350
合計	1,817,350

56年繰越基金引当500,000

次期繰越金668,832（前期）759,628

計 **2,666,042**

昭和57年度予算

（昭和57年４月１日～昭和58年３月31日）

収入の部

科目	金額	摘要
前期繰越金	668,832円	
会費収入	1,572,000	31G 1000名
合計	2,240,832	

支出の部

科目	金額	摘要
総会補助	250,000円	５月15日 長野総会
大会補助	350,000	９月４日 札幌大会
セミナー補助	200,000	２月５日 大阪セミナー
緑友だより	250,000	50号・51号
会議費	200,000	
会計事務費	50,000	
慶弔費	20,000	
印刷費	50,000	
通信費	50,000	
会長出張費	150,000	
小計	1,570,000	
予備費及繰越予定額	670,832	繰越基金 1,817,350
合計	2,240,832	

※昭和57年度事業計画は総会議事録の第３号議案を参照のこと

昭和56年度決算報告書

（昭和56年４月１日～昭和57年３月31日）

収入の部

科目	金額	備考
前期繰越金	759,628円	
会費収入	1,570,800	(30G 999名 △30,000)
受取利息	12,209	
雑収入	303,405	セミナー収益金
入会金	20,000	若竹会
合計	2,666,042	

支出の部

科目	金額	予算	備考
総会補助	250,000円	250,000円	５月16日 久留米総会
大会補助	350,000	350,000	９月４日 新潟大会
セミナー補助	0	200,000	２月６日 名古屋セミナー
緑友だより	310,000	280,000	48号 140,000 49号 170,000
会議費	230,000	230,000	６回開催
会計事務費	50,000	50,000	３月31日 一括払
慶弔費	0	30,000	
印刷費	64,540	30,000	３月31日 一括払
通信費	57,870	30,000	３月31日 一括払
会長出張費	150,000	150,000	３月31日 一括払
予備費より	34,800	0	テープレコーダー ３月31日一括払
会計	1,497,210	1,600,000	

繰越基金明細

56年度計上額	500,000
現在有高	1,317,350
合計	1,817,350

56年繰越基金引当500,000

次期繰越金668,832（前期）759,628

計 2,666,042

昭和57年度予算

（昭和57年４月１日～昭和58年３月31日）

収入の部

科目	金額	摘要
前期繰越金	668,832円	
会費収入	1,572,000	31G 1000名
合計	2,240,832	

支出の部

科目	金額	摘要
総会補助	250,000円	５月15日 長野総会
大会補助	350,000	９月４日 札幌大会
セミナー補助	200,000	２月５日 大阪セミナー
緑友だより	250,000	50号・51号
会議費	200,000	
会計事務費	50,000	
慶弔費	20,000	
印刷費	50,000	
通信費	50,000	
会長出張費	150,000	
小計	1,570,000	
予備費及繰越予定額	670,832	
合計	2,240,832	

繰越基金 1,817,350

※昭和57年度事業計画は総会議事録の第３号議案を参照のこと

ういうメリットを与えるかということは本末転倒である。従って緑友会に参加してその交流、語らいの中から自らメリットをつかんでいく、また与え合っていくということが、〝緑友会のメリット〟であり、緑友会は参加することに意義があり、参加を通しながら体験を重ねて自己研鑽していく、それがひいては自社に役立ち、地域印刷業界に貢献していくことになる。

反対給付的、即効的なメリットというものは緑友会にはない。この辺をよく理解していないと、〝何を与えてくれるのか〟という受身の求める態勢になってしまい、緑友会が先にあって後から各グループが生まれたというような錯覚に陥ってしまう。全く違うのであり、各グループがあくまで先にあり、そこから緑友会が生まれたわけである。この基本的な考えを十分気にとめてほしい。即ち緑友会は単なる親睦団体ではないし、決して華やかである必要はない。心をさらけ出して語り合う本音の会にならなければ、緑友の本当の遠大なメリットは出てこない。言うなれば、相互の心の触れ合いによって、自分が向上し、お互いが他山の石のように向上し合う、それが緑友の心であり、義務で集まるのではなく、心の触れ合いを持ちたさに参加するということにならなければいけないと思う。

地域でもそれはできるかも知れないが、全国レベルでそれをやっていこうというのが緑友会である。

全国にメンバーがあり、それがひいては業界全体のグレードアップ、レベルアップ、モラルアップをしていくのではないかということである。

しかし、会というものは、設立当初は意気盛んで目的に一直線に進むが、年月を経てくると、その目的もぼけてきて、その時々の事情に左右されるようになる。緑友会も同じである。歴史の中から拾ってみると、昭和37年に「マルミドリ」の問題がある。全判の用紙を半裁、四裁に切って支給してもらおうという提案を入れて業界に働きかけて、組合とともに行動を起こし、「マルミドリ」の名称で市販されたが、市場性がなくそのまま立ち消えてしまったが、緑友としてこうあるべきではなかったかという反省があちこちから出てきた。緑友は外部に向けて何かをするという会ではなかったはず、根本的に見直そうという反省が生まれ、以降組合になり代わって外に向けての行動は起こさないようになった。

その後40年に、九州の電電公社が傍系印刷会社を作り自社印刷を行うという「電話帳事件」があり、この時に熊本から報告があり緑友に支援の要請があったが、緑友会としてはなすべき事ではないと、東京グループだけの友情の資金カンパが行われ、東京グループから組合本部に問題提起し、組合が動いたことによりこの問題もスムーズに解決した。この時も行動か否かの岐路に立ったわけだが、その基本理念を守り、この事件でとった行動は私は正しかったと思う。会あげて反対運動に立っていたら、今日緑友会は存在していないのではないかと感じている次第である。

こうした経緯を緑友会は通ってきているわけだが、緑友会の性格・精神というものは、今までの歴史の中で消化され、つくりあげられ、確固たるものがあるという前提条件にたった上で、われわれの現時点における緑友会の活動の在り方についてぜひ話し合ってほしい。現在、総会・セミナー・大会という三つのイベントを設けているが、今後どうあるべきかを検討してほしい。

Aグループ

テーブルリーダー　竹田光宏常任幹事
サブリーダー　小林紀夫君

三事業の性格を明確に！

非常に活発な意見が出ました。過云の高度成長の時代から現在の低成長時代の状況から判断しますと、他グループの方々もおっしゃった通り、大変経済的負担が大きくなってきているのではないだろうか、そのあたりをやはり一考する必要があるのではないだろうか、それについては色々なご意見がございましたが三本の柱を集約して二本にしたらどうだろうか、たとえば総会・セミナーを一緒にしたらとか、大会セミナーを一緒にしたらどうかなどと云うご意見もございました。あるいは経済的な問題になりますと、公共施設の利用などを考えてみた方がいいのではないか、費用の一つの原因がホテルの利用というとこにあるのではないだろうか、もっと、セミナーなどは公共施設を利用して、そのあたりの経済的負担を少しでも軽くする様な方向でもいいのではないかと云うご意見でございました。私どものグループでは総会・大会・セミナー独立で討議した訳ではございませんので話しが前後したかも知れませんが、ともかく、そういう事で経済的な問題をやはり一番重視して考えて行きたいという様なこともございまして、逆にやはり三本の柱は三本として考える必要がある。できるだけふれあいの場と云うものは多い方が良い。経済的な問題にいたしましても、これは各グループで参加者がかたよっているのではなかろうか、できるだけそれを相互協力で別の人が出席をすると云うような協力を求めて行く必要があるのではなかろうかということでございました。又その中で一つ、実はその大会とかセミナー、総会に出てくれないかとお願いすると次の例会から出てこなくなってしまうと云う様な事もありまして、各グループのメンバーの方々に緑友というものを理解してもらうのは非常にむずかしいと云うことで、各グループメンバーに対する緑友のＰＲというものをもっと充実させてほしい、もっとメンバーが緑友とはなんぞやということがわかる様なＰＲも考えてほしいと云うようなご意見もございました。

等々いろいろなご意見がございました。どれを取るかはこれからの常任幹事会で決めて行く問題でございますがやはり経済的な問題と云う事が多い、さらにこれが発展してまいりまして地域での開催のかたよりというものも一つ考慮してほしいんだ、特に来年は広島大会、下関総会が行なわれる様に、西日本に集中してしまう、これでは東日本の方々がどちらにも参加しにくいのではないか、そのあたりも今後一考を要する点ではなかろうかということでございます。その他経済的な事について費用の面だけではなくて、時間の活用をもう少し考えたらどうだ、折角全国から集まってまいります。一泊二日と云うことが多くなる。それなのに翌日の日曜日は何もしないで解散である。これはもったいないのではないか、どうせ泊まるのであれば一泊二日徹底的にやったらどうか、そのあたり時間の活用という事も十分考えてゆく必要があろう。

それから私どもの、この緑友の交流ということから考えると大会後の懇親会等につきまして、もっとじっくりと膝を突き合わせた話し合いの場と云うものが必要ではなかろうか、日本人の血はどうも立食パーティーには向いていないのではないか畳の上で膝と膝を突き合わせた場作りと云うものが必要じゃないか、日本人と云うものの体質をやはり考える必要がある、欧米思考ではいかんよというようなご意見もございました。

やはりこの様な場における、緑友会の人間的なふれあいと云うものをもっと大切にして行きたい、是非今後の幹事会でこれらの事について討議をして行きたいと思っております。最後にこれらの結論といたしましては現在の総会、大会、セミナーというものの性格をもっとはっきりすべきである。それによって何か新しい解決の糸口がみつかるのではなかろうかと云うのがＡグループとしての総意のようでございました。

Bグループ

テーブルリーダー　竹内一博常任幹事
サブリーダー　鈴木紀道君

年三回開催継続を！

本音が出たと云うのがBグループの実感でございます。原点にもどれという、その原点とはいったい何かという、実はその原点を知らないという事で、世代が非常に変ってきているのではないでしょうか。

先ほどDグループより統合、合併の話しが出ておりましたが、Bグループでも同じ様な話しが出ました、しかし25年間つづけてきた事をここで分断することは、あいまかりならん、ということでございまして、やり方、その他については非常に検討する余地はあるだろうということでしょうけれども年に3回ぐらい、地方へ出ていける様な余裕がないといいましょうか、そういう事では印刷界は発展しないのではないでしょうか、まあそれは別といたしましてもこれは一つの投資であるという大きな考えを持ってもらいたいというのが、Bグループの考えでございます。確かに北海道へ行くにも九州に行くにもお金のかかるのは事実でございます、しかしそこに参加することによって各地の人さまざまのご意見、ご感想、どうしてあいつは儲けているのだろうと云う様な、生の声が聞けるという、その喜びが10万かかろうがいたしかたないだろうと割り切っていただきたい。

それと実は華美になってはいけないと云うお話しがありましたけれども、これも私どもの札幌大会を起点にいたしまして、ささやかな原点に戻ろうと云うのが主旨のようでございます。どうしましても国体、あるいはオリンピックと同じ様な意識が出てまいりまして、前大会地に負けない様な、その様なものを作って行かなければならないという一つの宿命のようなものをおわされるとこれは逆にきついのではなかろうかという考えもありましたが、一つの沈滞したムードの中に、それをやり終えると云う喜び、これが一つの各地元に帰ってからの活性化に役立つ事だと云うご意見も出ておりまして、年三回が少なくなってしまうと自分達のグループに廻って来るのが10年先、20年先になってしまうと自分達の会が停滞気味になってしまうんじゃないかと云う事も出まして、やはり年三回の総会、大会、セミナーは継続して行くべきだという考えが圧倒的でございました。そして今回東京晴海で展示会などが開かれておりますと、それを引っかけて来るので非常に出やすいという様な話もございましてやはりその様なもろもろの関係、業界の全体の動きというものも考慮して、大会時期の設定などをしたら良いのではないか、やはり我々は全国的組織でありますので、連帯感といいますか、そういったものをみんなで持ち合える会に互いに参加できるその喜びを分かちあおうではないかということがBグループの意見でございました。

Cグループ

テーブルリーダー・古賀健一常任幹事
サブリーダー　白石澄雄君

もっと実質的な勉強を！

大変皆さん活発にご発言をされまして、まとめきれないぐらいあるのですがなんとかまとめてみます。

総会・大会・セミナーの意義をもう少し明確にしてほしい、なんかチャンポンになりつつあるのではないか、それぞれの意義を明確にし、目的などが会員一人一人にわかる様にしてもらいたいという事でした、それから今も出ましたが、一般の会員にとって年三回というのは非常に負担を感じる、それで少し極端な言い方ですが総会・大会・セミナーをいっぺんにやってしまったらどうかということも考えてみたらどうか、又各グループ持ち廻りについては、費用について非常に問題がある、特に広告を取ったりそういうことについて時期も時期ですので安く上る様な方法、なるべく参加する事に意義があるのでしたら参加できる様な工夫を、参加しやすい工夫をもっとすべきではないか、セミナーについては昨今セミナーばやりで、セミナーずれしておりますので東京、大阪ぐらいを出席数の関係上、常設会場にして、講師には超大者を呼ぶと云う様な形にしてもらったらいかがでしょうか、逆にセミナーについては地方と東京、

Bグループ

テーブルリーダー　竹内一博常任幹事
サブリーダー　鈴木紀道君

年三回開催継続を！

本音が出たと云うのがBグループの実感でございます。原点にもどれという、その原点とはいったい何かという、実はその原点を知らないという事で、世代が非常に変ってきているのではないでしょうか。

先ほどDグループより統合、合併の話しが出ておりましたが、Bグループでも同じ様な話しが出ました、しかし25年間つづけてきた事をここで分断することは、あいまかりならん、ということでございまして、やり方、その他については非常に検討する余地はあるだろうということでしょうけれども年に3回ぐらい、地方へ出ていける様な余裕がないといいましょうか、そういう事では印刷界は発展しないのではないでしょうか、まあそれは別といたしましてもこれは一つの投資であるという大きな考えを持ってもらいたいというのが、Bグループの考えでございます。確かに北海道へ行くにも九州に行くにもお金のかかるのは事実でございます、しかしそこに参加することによって各地の人さまざまのご意見、ご感想、どうしてあいつは儲けているのだろうと云う様な、生の声が聞けるという、その喜びが10万かかろうがいたしかたないだろうと割り切っていただきたい。

それと実は華美になってはいけないと云うお話しがありましたけれども、これも私どもの札幌大会を起点にいたしまして、ささやかな原点に戻ろうと云うのが主旨のようでございます。どうしましても国体、あるいはオリンピックと同じ様な意識が出てまいりまして、前大会地に負けない様な、その様なものを作って行かなければならないという一つの宿命のようなものをおわされるとこれは逆にきついのではなかろうかという考えもありましたが、一つの沈滞したムードの中に、それをやり終えると云う喜び、これが一つの各地元に帰ってからの活性化に役立つ事だと云うご意見も出ておりまして、年三回が少なくなってしまうと自分達のグループに廻って来るのが10年先、20年先になってしまうと自分達の会が停滞気味になってしまうんじゃないかと云う事も出まして、やはり年三回の総会、大会、セミナーは継続して行くべきだという考えが圧倒的でございました。そして今回東京晴海で展示会などが開かれておりますと、それを引っかけて来るので非常に出やすいという様な話もございましてやはりその様なもろもろの関係、業界の全体の動きというものも考慮して、大会時期の設定などをしたら良いのではないか、やはり我々は全国的組織でありますので、連帯感といいますか、そういったものをみんなで持ち合える会に互いに参加できるその喜びを分かちあおうではないかということがBグループの意見でございました。

Cグループ

テーブルリーダー・古賀健一常任幹事
サブリーダー　白石澄雄君

もっと実質的な勉強を！

大変皆さん活発にご発言をされまして、まとめきれないぐらいあるのですがなんとかまとめてみます。

総会・大会・セミナーの意義をもう少し明確にしてほしい、なんかチャンポンになりつつあるのではないか、それぞれの意義を明確にし、目的などが会員一人一人にわかる様にしてもらいたいという事でした、それから今も出ましたが、一般の会員にとって年三回というのは非常に負担を感じる、それで少し極端な言い方ですが総会・大会・セミナーをいっぺんにやってしまったらどうかということも考えてみたらどうか、又各グループ持ち廻りについては、費用について非常に問題がある、特に広告を取ったりそういうことについて時期も時期ですので安く上る様な方法、なるべく参加する事に意義があるのでしたら参加できる様な工夫を、参加しやすい工夫をもっとすべきではないか、セミナーについては昨今セミナーばやりで、セミナーずれしておりますので東京、大阪ぐらいを出席数の関係上、常設会場にして、講師には超大者を呼ぶと云う様な形にしてもらったらいかがでしょうか、逆にセミナーについては地方と東京、

大阪の様な大都市と比べて非常なギャップを感じるのでブロック別とか地域別にして、地域に密着した様なセミナーにしたら良いのではという二つの大きな意見が出ました。

大会については観光が中心といいますか、遊びが半分といいますか、そういうセレモニー的な要素がありますので、各会持ち廻りで全国で開催した方が良いのではないでしょうか、それからもう一つ緑友が25年、30年という歴史をふまえて会長のお話しにもあったように決して中央集権的な、ピラミッド的な会ではないんだという事は良いのですが逆に目標や方向づけをして、一種の運動、テーマなどを設定して各グループに呼びかけるということも考えていいのではないかというご意見もございました。

もう一つ大事なことですが、緑友に出てくる人達のギャップがありすぎるような気がしますのでその点をもう一度把握していただき緑友の平均的な所はどのへんであるかを良く調べていただき、それに対して色々なテーマなりを設定していただき、各会で研究していただき、それの発表会をこういう場でしていただき勉強してみたらいいのではないか、それといつも出されるテーマがあまり大きすぎ、実質的でない、即自分のグループなり、会社に戻って役に立つ様なフィードバックできる様な運営のしかたをお願いしたい、実質的な、具体的な問題についてもう少し掘り下げて行ってもらいたい、という様な事がおもな内容でございました。

Dグループ

テーブルリーダー　中村勝亮常任幹事
サブリーダー　羽田好男君

質素・素朴な形で！

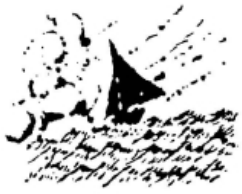
緑友会のメリットとしまして参加することに意義がある、これは大多数の人のご意見です。それには参加しやすくしなければならない、費用のかからないものにしなければならないのではないか、まあ、この様な意見から総会・大会・セミナーのあり方についてまとめました。

革新的なご意見といたしまして、総会とセミナーをドッキングして、できないものか、三つのイベントがありますが、この内の総会・セミナーをドッキングして参加者の費用のかかるのを押さえ、密度の高い勉強会となれば参加者も多く望まれるのではなかろうか、又総会を東京とか大阪という様な交通の便の良い所でやった方がより多く参加できるのではないかというご意見、いやそうではなくてやはり多くのグループで持ち廻りをして、広い場を持つ方がより大事であり、それによって又主管グループが内部の結束に非常に大きな力になっているというご意見がございました。

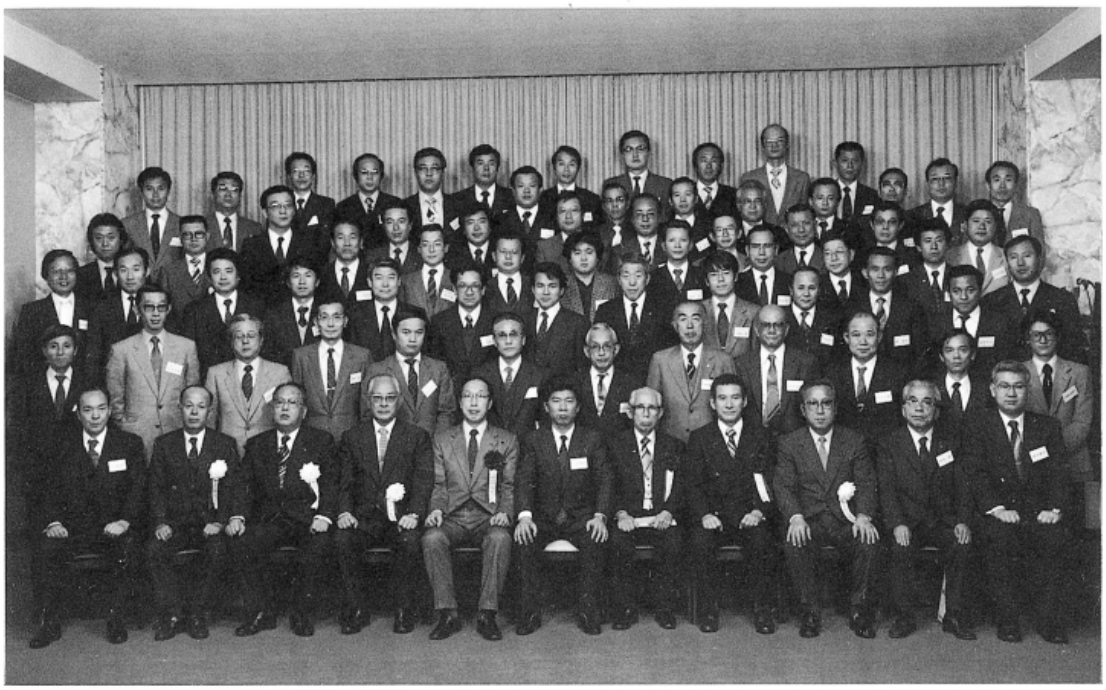
セミナー等の方法につきまして講師の先生を呼んでお話を伺うだけではなく会員同志で研修をできないか、又今回のこの長野さんが設定された様な本当に和気あいあいとできる様な形がよろしいんではないか、費用を低減するという事ですが、ただ安くすると云うことではなくて質素に、素朴に、こういう様な形でもできるのではないか、この様なご意見でございました。

以上のような意見と共に、私共グループとしては、参考意見ですが、緑友会へアクティブな会員の方は大いなるメリットを感じて参加しているが、余り緑友会へ参加しない会員に、緑友会というものを説明する時、仲々理解してもらうのが難しい。という意見がございました。自分で切符を買って汽車に乗らなければ目的もメリットもないと言う意見もありました。しかしある程度、全国組織としての目的、活力がないと理解してもらうのに難しく、何らかの形でイメージアップを計ることができないものだろうか、当然、政治色のものとか、組合がやるようなことは我々はやるべきではないと思いますが、例えばポスター展とか、ラップ展などうまく開催できないものだろうかという意見が出ました。本日のテーマは緑友会の原点論まで波及してはまとまらないということで、これらの意見は参考意見として付け加えさせて頂きます。

短い時間でしたが簡単に、この様にDグループの意見をまとめてみました。



大阪青年印刷人クラブ創立20周年を迎える



大阪青年印刷人クラブ創立20周年記念式典が去る3月13日㈯に大阪コクサイホテルにて挙行されました。網野栄大阪府印刷工業組合理事長、小西剛雄同専務理事、全国印刷緑友会からは中村守利会長はじめ各地の代表23名をご来賓としてお招きし、式典は午後3時より行なわれました。

開式宣言・国歌斉唱の後、物故会員柴田一夫氏、秋山光氏の霊に黙禱をさゝげました。網野理事長・中村守利会長より祝辞があり、山口会長が力強く今後の大阪青年印刷人クラブの進むべき方向と決意を披露されました。続いて顧問の中田秀一氏、岩岡敏志氏、吉岡達郎氏と相談役の中村浩一氏、作道亮雄氏の五氏に永年のご功績に対する感謝状が贈呈され、これを受け先輩を代表して岩岡敏志氏が、クラブ創設当時から現在に連らなるクラブの基本理念を改めて強調され式典を終えました。

式典終了後、岩木星澄氏による「21世紀の大阪」と題する記念講演が行なわれました。記念講演終了後、一同パーティー会場に席を移しなごやかな歓談のうちに午後7時半、恒例の「お手てつないで」で記念式典・パーティを終了致しました。

大阪青年印刷人クラブは昭和37年4月に創立され、現会員数は山口博司会長以下58名です。毎月一回例会として研修会・見学会等を行ない、メンバーの自己研鑽と親睦の場として地道ながらも活発に活動しています。

恒例行事として代表的なものは、今年で18回目を迎えるトップ印刷人セミナーです。例年有力な講師を迎え時宜を得た演題でセミナーが行われます。家族会は会員のみならず奥様子供達に大好評で、親睦の輪が会員と家族を含めて広がります。

印刷業界がコンピュータ社会の発展に伴い、大きく変革をせまられている昨今、我々青年印刷人に課せられた使命は大きいと思います。我々が英知を集め自己研鑽に励み、益々充実したクラブ活動を繰りひろげることにより、この責務を果したいと考えています。

全国印刷緑友会には20周年を越える歴史をもつ先輩のクラブが数多くあります。大阪青年印刷人クラブも今やっと成人式に到達致しました。今後とも変らぬご交誼をお願い致します。

全国印刷緑友会会員名簿

会名	会員数	代表者名	会社名	郵便番号・会社住所	電話番号
札幌青年印刷人の会	28	竹内一博	竹内印刷工業㈱	060 札幌市中央区南一条西6丁目	☎(011)221－7759
仙台刷親会	60	庄子義	江馬印刷㈱	983 仙台市伊在白山印刷団地26	☎(0222)88－5301
山形印刷研修会	27	武田明男	山形印刷㈱	990-91 山形市蔵王桜田字広面10－3	☎(0236)22－6291
福島印刷彩友会	30	鴨志田陽巨	㈱阿部紙工	960 福島県福島市南町345	☎(0245)45－2111
新潟県印刷新世会	51	村上智	㈲兄弟堂印刷所	950 新潟県新潟市上大川前通4番町36－6	☎(0252)22－5239
茨城印刷緑友会	35	宮岡壮吉	東邦印刷㈱	310 茨城県水戸市新荘3－5－15	☎(0292)24－0167
印刷同友会	74	福田満洲雄	福田印刷工業㈱	104 東京都中央区築地2－2－6	☎(03) 543－7371
千代田印刷人新世会	36	岸本英雄	錦野印刷㈱	102 東京都千代田区六番町7－23	☎(03) 265－2788
文京緑友会	45	利根川政明	利根川印刷㈱	113 東京都文京区湯島2－4－4	☎(03) 811－1111
東京写真製版若葉会	56	緑川章	若葉企画	150 東京都渋谷区恵比寿西1－30－14	☎(03) 464－0417
東京プロセス製版青樹会	25	木村知雄	㈱工雅社	112 文京区関口1－14－10 ㈱洋光社内	☎(03) 269－9266
港支部若竹会	18	宮田洋	宮田印刷㈱	108 東京都港区白金3－9－3	☎(03) 449－8040
神奈川正和会	24	西岡正昭	西岡印刷㈱	232 神奈川県横浜市南区吉野町5－22	☎(04)251－7017
山梨印刷若人会	23	笠井健夫	㈱峡南堂印刷所	400 山梨県甲府市丸の内1－10－1	☎(0552)35－2528
長野青年印刷人緑友会	32	小林昌助	㈲栄光社印刷所	380 長野市上千田134	☎(0262)26－6849
名古屋而立会	53	竹田光宏	竹田印刷㈱	466 名古屋市昭和区白金1－11－10	☎(052)871－6351
ぎふ印刷翠陽クラブ	39	伊藤孟	共和印刷㈱	501-11 岐阜市折立共和町 501	☎(0582)39－1146
金沢青年印刷人クラブ	16	白井秀幸	白井印刷㈱	920 金沢市石引1－4－33	☎(0762)62－3315
大阪青年印刷人クラブ	58	山口博司	東洋印刷製本㈱	546 大阪市東住吉区桑津5－20－11	☎(06) 714－0881
大阪写真製版二世会	13	尾崎彰	㈱錦靖社	540 大阪市東区内本町1－43	☎(06) 942－5256
神戸印刷若人会	25	米田肇	福田印刷工業㈱	658 神戸市東灘区魚崎西町4－6－3	☎(078)811－3131
愛媛印刷人青年会	20	村上邦彦	㈲青葉図書	790 松山市小栗6－3－23	☎(0899)43－1165
広島青年印刷研究会	36	花田佳雄	㈲花田印刷所	730 広島市中区光南2丁目8－15	☎(082)243－2062
下関青年印刷人緑友会	22	長阿弥暁	原写真印刷㈱	750 下関市上新地町3－1－29	☎(0832)22－5134
北九州Y・Pクラブ	23	貞末敏郎	冷牟田印刷㈱	807 北九州市八幡西区光明2－11－14	☎(0963)601-1717
福岡印刷若葉会	60	古賀健一	祥文社印刷㈱	812 福岡市博多区博多駅南4－15－17	☎(092)411－1611
久留米印刷緑友会	19	多田政敏	多田印刷㈱	830 久留米市諏訪野町4－2432	☎(0942)35－3459
佐賀県印刷人若楠会	41	宮地敏明	㈱宮地印刷	840 佐賀市長瀬町11－20	☎(0952)26－6135
佐世保印刷若汐会	18	松尾辰二郎	㈱隆文社印刷所	866 佐世保市瀬戸越町260	☎(0956)49－3306
熊本印刷緑友会	17	井上哲郎	㈱秀工社	862 熊本市国府4－10－18	☎(0963)66－1221
大分印刷若梅会	14	平岩禎一郎	佐伯印刷㈱	870 大分市古国府11組	☎(0975)43－1211
別府印刷組合青年部	12	有田友也	東九州印刷所	874 別府市立田町3－7	☎(0977)23－5061
沖縄県青年印刷若潮会	23	糸洲昇	総合プロセス製版㈱	901-11 沖縄県南風原町字兼城577	☎(0988)89－4793

●編集だより

緑友だよりも通算50号を迎えました。第25回定期総会も長野青年印刷人緑友会のご協力により、多くの成果を残して無事終了し、ここにご報告致します。

総会後のバズセッション方式による「緑友会の今後を語る」を、参加者全員で討論しましたことは、25回目という節目の総会、又、緑友会内の世代交代が著しく見られる時期に大変有意義なものであったと思われます。記事の中では、口述筆記の為、多少読みづらいと思いますが、是非一読して頂きたいと存じます。又、新たに山梨印刷若人会、佐賀県印刷人若楠会の2グループの加入により、全国33グループとなりました。今後も一層に、新規グループの加入を期待したいものです。おわりに来たる9月の札幌大会にはできる限り多くの会員の皆様が参集して、有意義な大会となるよう力を合わせましょう。

（千代田印刷人新世会編集・発行）

全国印刷緑友会機関誌

東京都港区白金1－25－20　中村精巧印刷㈱内

発行人＝中村守利　　編集人＝中村勝亮